

へきけんニュース

ホームページ http://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/
メールアドレス kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp
☎ 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292



北海道立教育研究所と北海道教育大学が連携し、 令和3年度これからのへき地・小規模校 教育充実研修【複式学級の学習指導】を 開催しました

北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター

1 北海道立教育研究所と北海道教育大学との共催研修の継続

令和3年6月25日（金）に、「令和3年度これからのへき地・小規模校教育充実研修【複式学級の学習指導】」を開催しました。この研修は、北海道立教育研究所が主催する現職教員向けの研修の一貫として、本学との共催により開催するものです。

北海道教育大学と北海道教育委員会および北海道立教育研究所は平成30年度から本格的に連携を開始しました。特に広大でへき地校が多いという北海道の現状を鑑みたとき、へき地・小規模校の研修を充実させることは、へき地校の担い手として活躍する人材を輩出するだけでなく、北海道の教職志望者を維持していく上でも重要な課題となっています。北海道では、札幌一極集中化が進み、地方ではすでに85%が過疎地に指定されており、へき地・小規模校の研修事業等が重要な課題となっています。

本講座の目的と内容は、複式学級における学習指導の在り方をテーマにし、直接指導・間接指導等の基本的な指導法への理解を深め、実践的な指導力を高めるとともに、へき地・小規模校における学習指導の改善・充実に向けた方策を考えることを目的としています。講座には、小規模校及び複式学校に勤務する初任・中堅・ベテラン段階の教諭等が受講しています。



【北海道立教育研究所遠隔講義配信室1】

2 遠隔システムによるへき地・小規模校の研修形態の拡大と可能性

当日は、ZOOMにより、それぞれの場所から配信・受信する遠隔研修方式の研修となりました。元々研修の在り方としては、昨年はコロナ禍の対応として遠隔研修が導入されましたが、徐々に遠隔研修が標準的に導入されるようになってきたため、集合方式ではなく、すべて遠隔方式にしたものです。

対面式の研修のメリットとしては、それぞれの経験交流を含めて実践方法を交流することで、より良いアイデアと方法が見つげ出すことができます。このように集まって身近な経験交流・意見交流を行いながら、さらに講義内容を各校・各教員に合った方法の開発と応用化を期待することはできます。

この対面式の重要性と共に、一方、へき地校においては、遠隔地であるがゆえに、日常的に研修会場に赴くことはできないので、今後も遠隔研修は重要な研修形態の一つになると思われます。この遠隔方式の中でも相互交流ができるような研修方式の開発が求められています。



【北海道立教育研究所の遠隔研修配信室2】

3 小学校のへき地教育実践報告と小規模性を活かした教育

はじめに、函館市立神山小学校 高橋 千晶先生より、「複式学級における学習指導の充実とへき地複式校の魅力について」の実践発表が行われました。高橋先生は、へき地小規模校でできること、できないことの両面から分析されていました。その上で、小規模性を活かしたへき地教育では、新たにできることがたくさんあり、それを活かすことによるメリットが大きいことを紹介されていました。むしろ少人数だからこそできるメリットを追究することが、できないことをカバーする条件になると捉えられていました。



【当日の実践発表者によるプレゼン資料】

4 川前副センター長の講義と基本的なへき地校実践の考え方

講義では、川前あゆみへき地・小規模校教育研究センター副センター長が「少人数及び複式学級の学級経営・学習指導」と題した講義を行いました。本講義は、少人数及び複式学級における学級経営・学習指導の基本的な考え方と指導法及び少人数のよさを生かした学級経営・学習指導の在り方に理解を深めることを目的としたものです。

この中では、わたり・ずらし等の基本的な学習指導と共に、間接指導時の自立的な学習活動・学習リーダーの役割・ガイド学習・極少人数での討論方法・小規模校の教科専科担任制度の導入・個々の子供の学習支援なども、問題提起されました。これらは今後のへき地・小規模校の学習が効果的に進む重要な要素となります。少人数の中では子供達に学習活動のプロセスを大胆に任せたり、個々の子供の様子が見えるため、教師はそれをとらえながらアドバイスしたりコーディネートすることができます。具体的な運営方法等が例示されたあとグループワークによる演習と全体共有を行いました。

演習講師は、札幌校・加藤雅子先生、旭川校・渥美伸彦先生、釧路校・森健一郎先生が担当され、オンライン上で参加者の熱心な討論が行われました。



【発信基地となるへき研センター】



【講習参加者】



【北海道教育大学へき研センター入口】



【川前副センター長による講義配信】

5 各校の実践の工夫を中心とした交流を

最後に、「自校における学習指導の工夫」に関する演習では、各会場ごとに遠隔方式の中で分かれて交流しました。本学へき地・小規模校教育研究センター員が講師として助言を行いつつ、少人数・複式学級の良さを生かした学級経営・学習指導や、自身の授業改善・充実に向けた方策などを検討・協議しました。受講者から、「間接指導での子供たち同士の話し合いの手立てについて、さまざまな方法や見方を知ることができました。」「目の前の子供たちに合わせて臨機応変に教材研究を行っていきたい。」等の感想が寄せられました。



6 へき地校の遠隔研修システムを活用した今後の研修の展望

小規模校では、様々な実践を取り入れ易いということもあり、個々の教員が様々な方法を試してみることができます。それを実践しながら交流できることが、新しい方法の導入と開発にとって重要な研修になります。ただ遠隔地にあるために、校内での交流はできますが、学校を超えた対面式の交流活動はできないために、遠隔システムを交流活動にどのように活かしていくかが今後求められていると言えます。

へき地教育の講習・演習を担当した北海道教育大学の各キャンパス

